

セイコーエプソン、塩尻市にプリントチップ[®]新生産拠点

Edited By LogisticsToday On 2018/07/10



セイコーエプソンは9日、2016年秋から建設を進めていた広丘事業所（長野県塩尻市）内の新工場が竣工したと発表した。

新工場は、エプソンの最先端のインクジェットプリントヘッド「プレシジョンコアプリントヘッド」のコアとなる構成部品「プリントチップ」の生産を行う。新工場は18年度内の稼働を予定しており、将来的には生産能力を現在の3倍に拡大させる計画。

プリントチップは現在、長野県の諏訪南事業所で製造しているが、新工場の稼働により2拠点体制となる。また新工場は、災害対策に優れた建物構造・設備を採用し、事業の継続性も強化する。

■新工場の概要

名称：広丘事業所9号館

所在地：長野県塩尻市広丘原新田80

機能：「PrecisionCoreプリントヘッド」の生産（前工程）、研究開発

竣工：2018年6月30日

建築面積：1万653平方メートル

延床面積：4万6915平方メートル

建築構造：鉄骨造、地下1階・地上5階建て

投資金額：255億円

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト：<http://www.logi-today.com>

URL to article：<http://www.logi-today.com/320740>

Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.